

入学式 式辞（本校）

2020. 4. 8

春のやわらかな風を全身で感じる事ができる今日の佳き日、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、令和2年度の入学式を挙行できますことは、生徒並びに教職員一同、大きな喜びであります。

ただ今、入学を許可しました360名の皆さん、入学おめでとう。はつらつとした皆さんを本校に迎えることができ、とても嬉しく思います。同時に、皆さんに、無償の愛を注ぎ、支え、励ましながら、この日を待ち望んで来られました保護者の皆様にも、衷心よりお慶びを申し上げます。

松山北高校は、明治33年に設立され、今年で120年目を迎える県内屈指の伝統校です。多くの先達が各方面で偉大な足跡を残しており、本校の歴史を紐解く度に、身が引き締まる思いがいたします。どうぞ、本校で学べることに誇りを持ってほしいと思います。

さて、高校生活の出発に際して、皆さんにお願いしておきたいことは、本校が指導目標に掲げている、生涯にわたって社会貢献できる人になることを目指してもらいたいということです。その土台づくりとなる学校生活ですが、今回の新型コロナウイルスの感染は、全国で臨時一斉休業が行われるなど、その活動が、年度末の卒業式をはじめとして、中止、縮小を余儀なくされており、誠に心が痛む思いがしております。今後の状況も予断を許さず、改めて、学校が通常通り教育活動を行えることのありがたさを感じています。

しかしながら、これまでと同じことを続けても、事態が好転するわけではありません。我々も自らの行動や意識を見つめ直し、手洗いの励行等、基本動作を徹底し、制約の中で、ある程度の長期戦を覚悟し、自分や他人の命、そして社会を守るための粘り強い戦いを、ともに続けていきましょう。

視点をかえれば、今回のピンチにより、ある意味では、既存の枠組みや価値観は崩壊せざるを得ず、多くの変化をもたらされることとなります。覆い隠されていた、ことの本質が露呈するとき、いかに頭を使い、柔軟な発想でもって新たな価値観を創り出していくかが重要になります。一例をあげれば、ICTを利用したテレラーニング等の学習支援の仕組みは、飛躍的な進化を遂げるでしょう。人生の最も多感な時期における今回の経験が、この困難を克服したとき、皆さんが力強く人生を送るための礎となると信じています。「君たちはどう生きるか」。まさに、マニュアルや指示に従うだけでなく、自ら考えて課題を解決することが必要とされる状況です。試行錯誤を繰り返す中で、自分なりの新しい答えを見つけてください。

また、グローバリズムの進展の傍らで、ナショナリズムが台頭し、人々の分断が進んでいることを危惧する昨今でしたが、今回の人類の危機とも言える感染は、一時的には、さらに人々を分断するかもしれません。しかしながら、私たちが繋いでいるものは、私たちが分断しているものよりも偉大であり、互いに隔たっていたとしても、その人らしさ、それぞれの持ち味が集まって、同じ道を歩んでいるのです。今こそ、私たちは、聖徳太子が十七条憲法の冒頭に掲げた「和を以て貴しと為す」という言葉を原点とし、やわらぐ状態を作って納得いくまで話し合いをする姿勢を大切にしたいと思います。皆さんの高校生活が、どのような制約の中でも、みずみずしい感性を失うことなく、基本的に人間というものを信ずる素直で前向きな姿勢を保ち続け、心躍る学び合いの日々となること願っています。

最後に、ミスチルの桜井和寿作詞の“Bank Band”の楽曲「はるまついぶき」の次のフレーズを皆さんに贈りたいと思います。

「鬼が笑う」ならそれもいい
いつか僕らも一緒に笑えばいい
あきれんくらい未来の話をしてしよう

今のような状況だからこそ、坂の上の一朶の雲を目指して、あきれんくらい未来の話をする、そんな希望を忘れない高校生活を送ることをお願いして、新入生の皆さんへのエールとします。

令和2年4月8日

愛媛県立松山北高等学校長 長井 俊朗